

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790400065		
法人名	社会福祉法人 光和会		
事業所名	グループホーム ローズガーデン		
所在地	沖縄市諸見里3-41-30		
自己評価作成日	令和5年 1月 26日	評価結果市町村受理日	令和5年 4月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=4790400065-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=4790400065-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和5年 2月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員がご利用者様一人ひとりの意思決定を尊重したサービス提供が行えている。</li> <li>・施設周辺のお散歩を生活リズムの中に取り入れている。</li> <li>・外出支援を要所に取り入れ、施設サービスのマンネリ化を防いでいる。</li> <li>・地域ボランティアが毎月訪れる(余興)。</li> <li>・身体拘束ゼロを掲げ実践している。</li> <li>・訪問歯科診療を毎週行っており利用者様の口腔内環境に配慮し健康面のサポートを行っている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅街にある複合施設で、特別養護老人ホームと有料老人ホーム合同で、日々の食事の提供や運営推進会議、各種研修、防災訓練等を実施している。サービスの質の向上に向けて毎月、グループホームの意義や目指す姿等、テーマに沿った研修を実施し、管理者は経営支援の勉強会に参加している。職員の意見を積極的に取り入れ、理念の見直しや法人の名称変更に向けて職員にアンケートを実施し、「人と人のつながり」と「光のあたたかさ」を大事にしたロゴを決定している。薬剤師による居宅療養管理指導を導入して服薬管理を徹底し、誤薬ゼロを達成している。ドクターメイトとの契約で、昼夜を問わず利用者の急変時への対応が適切に行われ、利用者・家族の安心感や介護職員の不安感軽減につながっている。コロナ禍においても運営推進会議を開催し、管理者はじめ計画作成担当者と介護職員、法人の看護師等が連携して感染予防対策を実施し、利用者の感染ゼロが続いている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員一人一人が理念を理解し、家庭的な雰囲気心を掛けながら日々の業務を行っています。	事業所の理念の見直しについて職員とともに再検討している。事業所の理念である「利用者の思いの尊重、笑顔が絶えない、利用者とともに歩む」をミーティング等で共通認識し、利用者がやりたいこと、できることを尊重して支援している。職員アンケートを実施し、「人と人とのつながり」と「光の温かさ」を大切にしたいロゴを決定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎月のボランティア(諸見里婦人会)受け入れにより、利用者の皆様も楽しみにこの日を心待ちにしている。 ・毎日の日課の散歩を通してご近所さんとの交流も見られる。又、公民館行事にも時々顔を出させてもらい、楽しい時間を過ごしている。 ※コロナ禍により、活動を縮小している。	運営推進会議に複数の自治会長が参加し、地域の情報が提供されている。コロナ禍以前は事業所近くにある公民館主催の行事に参加し、地域の婦人会が毎月ボランティアで踊りを披露するなど、地域とのつながりは深い。去年のクリスマスには近くにある保育園へ出向き、利用者が作成したちぎり絵をプレゼントして交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所内に認知症に関するパンフレットを置いて、ご家族や来訪者への提供も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・年6回(偶数月)会議を開催し、サービス提供状況の報告、事故やヒヤリハットの報告等を行っている。	運営推進会議の要綱が整備され、コロナ禍でも感染対策をして年6回、開催している。書面開催した1回は、前もって電話で委員から意見等を確認している。委員は行政の職員と自治会長、民生委員、知見者、家族、利用者で構成され、利用者の状況や外部評価、ヒヤリハット・事故等の報告をしている。会議録は委員に配布し、事業所内で公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・年6回(奇数月)のグループホーム連絡会に参加し、行政報告や各事業所が抱える問題点などを話し合い、情報を共有しながら改善、向上に努めていたましたが、現在コロナウィルス感染防止の為、実施できておりません。	行政職員や地域包括支援センターの職員が運営推進会議のメンバーとして参加して情報交換が行われている。市の認知症高齢者あんしん登録事業の利用者について、地域包括支援センターと情報交換をしている。生活保護受給中の利用者の状態が悪化した場合はケースワーカーに連絡している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止は施設や法人の目標の核であり常に実践している。	身体的拘束等の適正化のための指針を作成し、身体拘束ゼロ宣言をしている。委員会は法人合同で3か月に1回開催し、議事録は職員にラインで周知しているが、外部委員がいない。入居時に身体拘束をしないことによるリスクを説明し、研修も定期的実施している。職員は睡眠センサーが拘束に該当しないか等を話し合っている。カメラは玄関と廊下に設置している。	身体的拘束等の適正化のための委員会に外部委員の参加が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員一人一人が認知症を十分理解し、連携しながらサービス全般への心遣いや配慮を心掛けて日々の業務を実践しています。	虐待防止の徹底について、管理者は職員とのコミュニケーションを大切にしている。勉強会等で「虐待ゼロマニュアル」を読み合わせ、不適切なケアについて話し合い、研修を実施している。虐待防止のための基本方針を作成し、身体的拘束廃止・虐待防止対策委員会を開催している。不適切なケアには管理者がその場で注意し、全体会議でも注意を促している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修への参加や研修資料などの回覧、又は報告書をもって学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時には必ず、御家族や利用者本人に対し、契約の内容に関する説明を十分に行い理解や納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・御家族や利用者とのコミュニケーションを常に大事にし、普段の何気ない会話の中から意見や相談があれば確認し其の都度、対応、検討している。	運営に関する利用者の意見は、日頃の会話の中から汲み取ってケアに反映させている。仏壇や通帳のことを気にする利用者には、一緒に家まで出掛け、家族から話をしてもらうことで落ち着いた事例がある。コロナ禍においても家族からは面会に関する要望があり、窓越しの面会や1階ロビーでの面会を実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員に対しても、普段から十分にコミュニケーションが図られている。	職員の意見はミーティング等で聞いている。職員から、新しい畳への交換や洗剤を置く棚の増設、照明をLEDに変えて等の意見があり、改善されている。勤務体制についてシフトミーティングで職員と話し合い、夜勤体制を2交代制から3交代制に変更して、職員の精神的負担の軽減や業務改善に繋げている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・全職員が働きやすい職場環境の整備に取り組み、条件等を整える為の話し合いを管理者は常に代表者と意見交換に努めている。	年休は時間単位で取得でき、育児休暇や介護休暇の取得も認め、短時間勤務の実施もある。夜勤体制を2交代から3交代に変更して働きやすい環境を整備し、研修参加時は勤務調整をしている。ハラスメント防止規程が整備され、担当窓口を設置して就業規則に記載し、研修を実施している。職場環境改善セミナーを受講し、年2回ストレスチェックを実施している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・個々に応じた外部研修に参加したり、介護主任や介護支援専門員を中心に技術指導やメンタル指導も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・2ヶ月に1回、沖縄市グループホーム連絡会の集まりに参加し情報交換を行っていましたが、令和2年よりコロナ禍にあり現在、実施できておりません。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者の不安を確認し気持ちを汲み取り、傾聴する姿勢を持つ事に心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・御家族の介護に対する思いや不安、今後についての意向の確認、傾聴する姿勢を持つ事に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人や御家族にとって最優先解決課題を抽出し、必要に応じて他職種と連携しながら課題解決に向けた提案、対応をするように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の自己決定がなされる支援を心掛けるとともに、利用者同士が寄り添えるような生活空間や環境の整備に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・コロナウィルス感染防止対策の為、窓越しに直面されていますが、定期受診や緊急受診等は家族様対応にて付き添われておりその際、本人との関わりを持たれております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	・コロナ禍で御家族以外に会うことはできませんが、友人からの手紙や写真などで懐かしんだり、電話で近況を話し合ったりしています。	コロナ禍で外出等が難しい中で、家族等を通して利用者の元同僚からもらった手紙に同封された写真を懐かしく見入っている利用者への関係継続の支援をしている。正月に友人への電話や友人からの電話に対する支援もある。中には「戦争を語る会」等で一緒に活動していた友人から手紙をもらい、当時を思い出して懐かしむ利用者があり、職員は関係継続の支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日課活動を通して隣同士、お茶を飲みながら、出身地の話をされたり家族の話をされ交流の場を持たれています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約終了後も利用者や御家族との関係性を維持し、相談があれば支援、助言に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常生活の中で、利用者の表情や言動の中から思いや意向を汲み取り、自立支援に繋げている。	利用者の思いや意向は、アセスメント時やケアの中で直接利用者から聞いて把握に努めている。会話が難しい利用者の場合は、家族からの情報を参考に利用者本位に意向の把握に努めている。把握が困難な利用者は日頃のケアの中で表情やしぐさから推察して把握し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴や馴染みの暮らしを利用者本人や御家族から情報を伺い、希望に添える様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日頃から利用者の心身の状況、認知度について把握し、出来ることを見つけて少しでも取り組みや活動に参加して頂けるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和5年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護支援専門員を中心に利用者、御家族、介護職員と話し合いの場を持ち利用者の置かれている状況に即した介護計画書を作成、介護記録に残している。	計画作成担当者が利用者や家族の要望等を確認して職員と話し合い、介護計画を作成している。モニタリングが定期的実施され、認定更新時や状態に変化があった場合は介護計画を見直している。長期目標は概ね1年、短期目標は6か月となっている。目標達成の項目が、長期にわたり継続となっている事例があり、現状に即した介護計画の見直し期待される。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録へ個々の利用者状況を記載し、介護職員全員が情報を共有し把握できている。又、日々の状況や御家族とのやり取りを支援経過に記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご家族が病院受診の後にドライブされて帰所されたり、又、併設の特養ホームの入所中のご家族や共通の知人が訪ねて来られたりしている。(コロナ禍のため、制限あり)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・住み慣れた地域の商店や公民館を巡り、地域資源の活用に努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・御家族には定期受診や体調不良時には利用者の受診をして頂き、必要時、かかりつけ医や認知症専門医へ利用者の状態を情報提供し、適切な治療が受けられている。	利用者は全員、馴染みのかかりつけ医を継続受診している。定期受診や他科受診は家族対応で、受診前に状態を記載した書面や口頭で家族に情報を提供し、受診後は医師からの返信を確認して対応している。法人の嘱託医による検査を3か月に1回実施し、体調不良の際は、早めに家族へ報告して受診を促している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・ローズガーデンには看護師配置がないので、定期的に法人併設の森城看護師に見守りに来てもらっている中、助言やアドバイスを受けながら適切に利用者への対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・介護支援専門員が入院先の地域連携職員と情報交換を密に行いながら、早期退院に向けて受け入れ時期などの調整を図っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ローズガーデンには看護師配置がないので、定期的に法人併設の森城看護師に見守りに来てもらっている中、助言やアドバイスを受けながら適切に利用者への対応を行っている。	医療的なニーズや終末期への対応は行えない方針を入居時に、本人・家族へ説明している。医療的なケアが必要と判断した時点で、利用者の状態に合わせて家族やかかりつけ医と相談し、利用者等の意向を確認して、希望に添って医療機関や他施設と調整している。食事が摂れなくなり、胃ろう造設を希望して他施設へ変更となった事例がある。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・法人併設特養ホーム看護師が中心になり必要時には指導、助言を貰いながら日々のケアに繋がっている。	緊急時対応や事故予防対策マニュアルを作成している。事故発生時は事故対策会議で発生要因や対策を検討して職員に周知し、運営推進会議で報告している。食後は事故が多いことを職員間で把握し、声かけの対応をしている。ドクターメイトと契約し、法人の看護師が対応困難と判断した際や夜間急変時は、電話等で医師の指示を受けて対応し、病院搬送した事例がある。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	・昼夜を想定した消防避難訓練を年2回実施し、近隣事業所や地域住民も少数ながら参加し、協力しながら行っている。	屋想定火災避難訓練を併設施設と合同で2回実施し、地域住民に訓練への参加を呼びかけている。業務継続計画を作成し、県主催の大規模地震・津波想定訓練で利用者や避難方法を検証している。マニュアルに沿って感染症対策を徹底し、研修を実施し、新型コロナに感染した利用者はいない。25年保管可能な食料と水を利用者の3日分準備している。	年2回の訓練を実施しているが、夜間想定訓練の実施が望まれる。備蓄については職員の人数分の追加を検討することに期待したい。



自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ケアの実践時には本人への意思確認を行い声掛けにも細心の注意を払いながら同意を得て実践するよう職員一同心掛けている。	認知症高齢者介護マニュアルを作成し、介護ミーティングで勉強会を実施している。プライバシー保護マニュアルには個人情報保護や入浴・排泄介助時のプライバシー保護、虐待防止についても記載されている。利用者がやりたいこと、できることを尊重して支援し、言葉かけにも配慮している。入浴や排泄の介助は同性介助を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・常に言葉かけを行う中で本人の意思を確認し、自己決定が出来る支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・自室で休みたい時やお風呂に入りたくない時など利用者本人からの訴えを傾聴し、無理なく過ごせるよう配慮しながら声掛け見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・出張散髪により定期的に理容師が訪問し、身だしなみの支援を行っている。又、整髪、髭剃り、爪切りを行い容姿には気を付けている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・栄養士により個々の利用者の状態にあった形態を確認し、栄養バランスにも配慮した食事提供を行っている。	法人の管理栄養士が献立を作成し、3食法人厨房で調理している。季節や行事に合わせた食事の提供もある。栄養士が嗜好調査を実施し、希望に応じてハンバーガーを提供し、おやつにケーキを出すこともある。職員は食事について利用者の状況を申し送りに記載し、栄養士や調理師と話し合う機会もある。利用者と同じ食事を一緒に食べる職員もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者一人一人の食事の摂取量を記載し、状況把握に努めている。水分摂取量は一日1200~1500mlを目標に実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、見守りや言葉がけ、介助により、口腔ケアが行われている。又、義歯の不具合や口腔治療が必要な方は歯科受診されている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・法人全体でおむつゼロを目標に取り組んでいる。日中は、なるべくトイレで排泄ができるよう見守りや介助を行い、夜間は、4名の方がトイレにて排泄を行えている。	おむつゼロの取り組みとして、水分を1日1200~1500ml、食物繊維や乳製品を提供し、可能な限りリハビリとしてトイレに案内している。職員は尿量や体格、排泄パターンに応じたオムツのサイズ選びやあて方の勉強会を実施している。イライラする等、個々の排泄のサインを把握し、失敗時はさりげなく対応している。夜間はセンサーマットも利用してトイレに案内し、見守りの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・1日の水分摂取量を1200~1500mlに設定している。又、食物繊維補助食品などを活用し、食事や飲み物に入れたり日中の活動量を増やしたりし対応している。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴は週3回実施し、利用者には予め入浴日と時間を告げ納得を得られている。嫌がる利用者には、無理強いせず時間をずらしたり曜日を変えたりして対応している。	入浴は週3回午前中を基本とし、曜日の変更や午後後の希望にも対応している。入浴への抵抗が強い利用者には無理強いせず、主治医と相談して清拭や着替え等で対応し、気分の良い日に入浴してもらおう等の支援もしている。自分でできる部分は本人にお願いし、民謡等を流している。好みのシャンプーやリンスを使う利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活習慣や本人の睡眠状態に合わせて休憩を入れたり、寝具の調整をしたり、安心して眠れる環境づくりをしている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬局からの調剤情報を確認し、分からない薬剤があれば、提携薬局の薬剤師や森城看護師に確認している。	居宅療養管理指導が導入され週1回、薬剤師が仕分け・配薬し、薬剤師からはアドバイスも得られている。個別の与薬対応マニュアルが作成され、職員2名で薬剤情報を確認して与薬し、1年間、誤薬はない。利用者の服薬状況や心身の状態等は、必要に応じてかかりつけ医や家族に情報を提供している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・歌を歌ったり、三線を弾いたり、各々の趣味、嗜好を確認しながらサービスに取り組んでいる。又、天気の良い日には、施設外周を散歩するのも楽しみにしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・普段から日常にお散歩を楽しんでおり、気分転換を図っている。又、家族様、希望により写真館に連れ出し記念写真を撮られている。	天気の良い日は事業所周辺の散歩を日課としている。玄関前の椅子に腰掛けて外気浴をする利用者や車椅子で散歩しながら隣家の花に興味を示す利用者がある。家族と一緒に写真館で生年祝いの写真を撮影した利用者や昔、働いていた市場に出かけて馴染みの人と話をしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・通帳のコピーを本人確認し銀行にお金がいくら預金されているか知ることで安心されている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望時に社内電話を使い、御家族などに連絡を行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者の日常生活での活動写真や四季折々の工夫などを壁に張るなどして、見る楽しみにも工夫している。又、食堂ホールには大きな窓があり、心地よい光や風を感じたり、馴染みの曲を聴きながら穏やかな時間を過ごされている。	共用空間は、利用者と職員共同で作成した作品が飾られ、季節感が味わえる工夫をしていたが、コロナ禍で取り払われている。音楽を流してリラックスできる雰囲気を作り、マットの害虫駆除を行い、トイレ等はわかりやすく表示して清潔を保っている。風呂場の更衣室には木製の長いすがあり、洗剤等は職員の要望により大工さんが製作した棚に保管している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合った利用者を相席にし、窓越しに見える訪問客や業者をみながら会話を楽しんでいる。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の使い慣れた物、装飾品などを御家族に協力を頂いて持ち込みをお願いしている。(写真、本、手帳、カレンダーや人形等)	居室は、和室と洋室があり、トイレ付きの部屋もある。ベッドと収納棚、エアコン、洗面台が備えられている。利用者は、家族写真や人形等、使い慣れた馴染みの品を持参して、これまでと変わらない落ち着いた生活が送れる環境作りに努めている。オムツは収納棚に保管している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室やトイレが分かるように目印を作り迷わず行けるよう工夫したり、自身で使った食器(コップ)を片づけたり、洗濯物をたたみ自分の持ち物を部屋のタンスに入れたりしている。		